

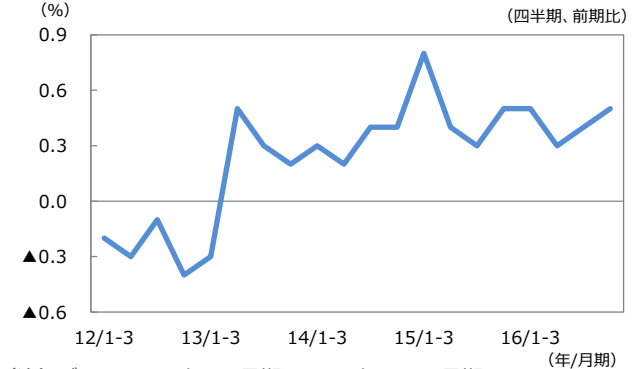
## 今日のトピック ユーロ圏のGDP成長率（2016年10-12月期速報値）

# 10-12月期は前期比+0.5%、景気拡大が続く

### ポイント1 10-12月期は0.5%増 前期から小幅に加速

- 2016年10-12月期のユーロ圏の実質GDP成長率（速報値）は前期比0.5%の伸びとなりました。市場の予想通りで、7-9月期から小幅に加速しました。内訳は現時点で判明していませんが、個人消費が堅調に推移したと見られます。
- 17年1月以降については、欧州委員会の総合景況感やIFOの輸出期待DIの改善を踏まえると、引き続きユーロ圏の景気拡大が続く見通しです。金融緩和と財政拡張が当面維持されるなかで、堅調な内需が腰折れする可能性は小さく、景気の拡大基調は18年にかけて続くと考えられます。

ユーロ圏実質GDP成長率

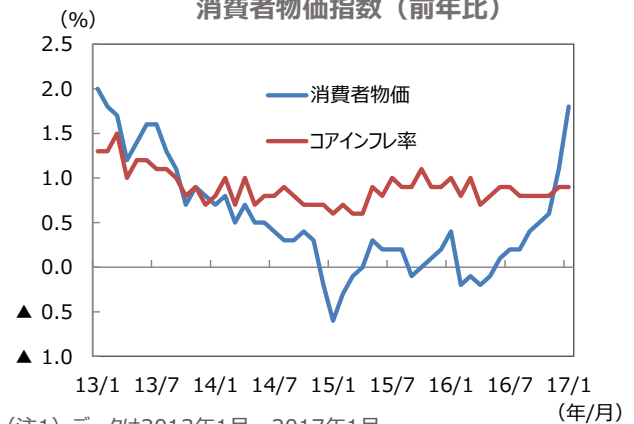


(注) データは2012年1-3月期～2016年10-12月期。  
(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### ポイント2 消費者物価指数は上振れ コアインフレ率は横ばい

- 17年1月のユーロ圏の消費者物価上昇率は前年比1.8%と、市場予想の1.5%を大幅に上回り、約4年ぶりの水準となりました。これはエネルギー価格が12月の2.6%から1月の8.1%に大きく加速したことが主因です。欧州中央銀行（ECB）が重視しているコアインフレ率は0.9%となり、前月と横ばいでした。

消費者物価指数（前年比）



(注1) データは2013年1月～2017年1月。  
(注2) コアインフレ率は消費者物価指数（エネルギーと食品等を除く）。  
(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### 今後の展開 長期金利は緩やかにレンジを切り上げる展開へ

- 現状コアインフレ率は落ち着いていますが、重要なのは景気拡大に伴って同指数が徐々に高まっていくことです。ECBの金融政策については、政治リスクやイタリア情勢も考慮されて当面は様子見スタンスが続くものの、タカ派から金融緩和縮小を求める動きが強まりそうです。
- 景気が順調に拡大し、物価が緩やかに上昇すると見込まれることに加え、ECBの金融緩和の縮小への思惑が徐々に高まると思われ、長期金利は緩やかにレンジを切り上げる展開になると見られます。

### ここもチェック! 2017年01月26日 最近の指標から見るユーロ圏経済（2017年1月） 2017年01月20日 ECBの金融政策（2017年1月）

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。